

飛驒山脈ジオパーク構想
ジオサイト(第12章)

傾いて隆起した槍ヶ岳

「あ！槍だ！」飛驒山脈に登った登山者が真っ先に目印にする山が槍ヶ岳です。槍のように天を突く姿は、目につきま

北鎌尾根・東鎌尾根・そして穂高連峰につながる4つの尾根の接点が槍ヶ岳です。尾根と尾根の間の谷は深く切れ込んでいます。槍ヶ岳は周囲を氷河等に削られ残った部分という一面はありますが、その形のできかたは単純ではないようです。

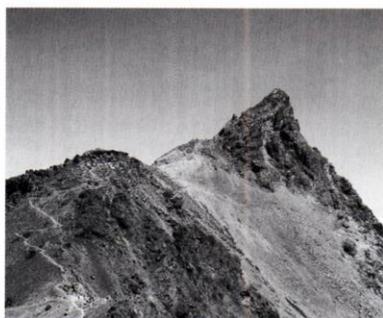
たとえば、この写真は、南側の大喰岳からみた槍ヶ岳です。山頂部が東側に傾いて、お辞儀しているように見えます。なぜ傾いているのでしょうか。

その北側に連なる北鎌尾根は、新田次郎の小説「孤高の人」の舞台の1つです。小説は昭和初期の登山家、加藤文太郎がモデルとなっています。その頃の登山は猟師などをガイドとした高級なスポーツであり、単独行で地下足袋姿の文太郎は異色の登山家でした。

当推進協議会顧問である信州大学原山智名誉教授によると、傾きの原因は飛驒山脈を南北に走る断層を境に、信州側の大地が飛驒側の上に傾いて乗り上がったためです。

文太郎は、飛驒山脈での冬期登頂を単独行で次々と成功させ、一躍有名となりました。

この大地を押す力は、日本列島に広範囲に加わっています。太平洋プレートは年平均8センチの速さで東から西へ移動し、日本海溝に沈み込みます。そして、同時に日本列島を押しています。あの東日本大震災の地震活動もこの力に起因しています。



(飛驒地学研究会 中田 裕一)

問合 飛驒山脈ジオパーク推進

協議会

☎0578-84-0038